

災害での対策はできないのだろうか

一年 櫻井 里穂

近年、災害が多くなっている気がする。こ
こ五年で見ると、東日本大震災、台風水
害、集中豪雨、火山災害などたくさんある。
こうした災害で、自分の命を守るためにはど
うしたら良いだろう。私の考えは三つある。
まず一つ目は、地域又は学校などで行われ
ている防災訓練に積極的に参加することだ。
今の防災訓練は、避難所までのルートを確認

しながら行う。だが、防災訓練があると分か
っていても体が不自由な人や高齢者はなかな
か参加できない。どうすれば参加できるよう
になるだろう。もちろん市の防災無線でも呼
びかけをするが、それでも駄目な場合は何か
考えるべきである。私もいくつか考えてみた。
防災訓練に参加している人が避難所へ行く途
中に近所の人に呼びかけをして、積極的に参
加してもらうのはどうだろう。一人暮らしを
している人や車いすを使用している人も手助

けしてもらいながら、防災訓練に参加することができる。こうして呼びかけをすることによって実際に災害が起きたときに一人でも多く助けることができると思う。

次に二つ目は、災害がいきなり起きたときのために、防災グッズを備えることだ。なぜなら、災害はいつ、どこで起こるかが分からないからだ。では、防災グッズとは何を準備すれば良いだろう。私の家には、水、非常食、懐中電灯などを準備している。私は、東日本

大震災を経験し、実際に体験した中でラップが一番使いやすかった。災害により、水道が止まったとき、食器類にラップをかけて、食器を洗わず何度も使えるという利点がある。しかし、足りない物や把握しきれない物も色々あった。ベル、シートや軍手、ロープなどまだ必要な物があつた。だが、出していくと切りが無い。ある程度の物ならどんな人でも準備は出来ると思う。防災グッズを用意しておいて損はない。

三つ目は、近所どうしで助け合うことだ。周辺の家が倒壊してしまった時に、助かった人達が出来ることは何だろう。警察、防害を呼ぶことは出来ない。助けを呼んだとしても時間がかかる。そういった場合には、助かった人達が協力して少しでも早く救助ができるように、助けを求めている人がどこにいるかや、周りのがれきなどを少しでもどかして、助けが来るのを待つことが良いと思う。またその家にどのような人が生活していたのか。体が

不自由な人、お年寄り、幼い子などの情報を到着した救護者に言うことが大切だと思う。こうして地域の力を利用し、早く救助ができるようにすると良いと思う。

この三つのことをすれば、自分の命や周りの人達の命を守れる可能性は上がるのではない。災害が起しても慌てず、事前の計画や準備を利用し、周辺の人、近所の人との協力で、災害を乗り越えられると思う。